

皆様の情報誌です。ぜひ、ご家庭にお持ち帰りください。http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/



琉球大学医学部附属病院
副病院長・脳神経外科長

石内 勝吾

診療科の紹介

脳神経外科開講30周年の歴史

脳機能温存手術と脳賦活学構築樹立をめざした年月

琉球大学大学院医学研究科脳神経外科学講座は昭和59年4月1日に開講され、今年で丁度30周年を迎えました。初代教授六川二郎先生は機能的な外科がご専門で、先生の代表的学術論文（Jpn J Psychiatr Neurol 1991）の中で先生が開発されたForel-H野手術の適応について脳外科医のあるべき姿を述べています。外科医は脳細胞をablation^{*1}したり神経活動の伝播を遮断したりするのではなく、大脳神経細胞の機能的な異常を正常化するという観点から手術を行わなければならない、また手術を受けるてんかん患者が長年にわたり病気に苦しんでいる事を忘れてはならず、医師はてんかん症状に向き合うだけでなく患者の心や社会的な環境にまで心を配る事が肝要である。六川先生はその卓越した指導力と情熱を持って教室を主宰され、教育、研究、診療とくに地域医療の充実に尽力されました。現在、県下の基幹病院で管理者を務める多くの方が先生の薫陶を受けられました。先生は平成23年、医師会分科会活動（通称 四金会）により叙位叙勲（従四位瑞宝中綬賞）されました。先生が心を砕いて盛り上げた学術集団である四金会はその後も活発に活動し、現在会員数70名、学術集会開催数は108回になります。

第2代教授 吉井與志彦先生は、脳腫瘍治療に対する高気圧酸素療法の応用や現在医学科4年生が行っている離島地域病院実習（RITOプロ^{*2}）などは先生が文科省に提案なさったものです。先生は在職中に沖縄県下の離島・僻地医療の解決に心血を注ぎました。またその社会活動は地方裁判所専門委員など司法の領域も含む幅広いものでした。私は先生とは専門分野も同じで古くからの知り合いでしたので赴任にあたり丁寧な引継ぎを受け、また先生が担われた幅広い分野での要職を「君を推薦しておいた」と継承の手配をしていただき感謝しております。

このように琉球大学医学部附属病院脳神経外科はその開設時から外科学技術の修得を超えて脳神経外科疾患に伴う脳機能障害の病態解明とその治療に邁進し、さらに病により障害された脳機能の賦活獲得という大きな課題の達成を目標としながら発展してきました。現在、術中MRIの導入やナビゲーションにPET画像やトラクトグラフィ（神経回路）の情報を生じた画像誘導手術と神経機能モニタリングを駆使する手術環境が整いました。これは患者の機能を温存しながら最大限の治療成果を期待するものです。関連施設からは次々と高度化手術症例が紹介されて来ています。ポリクリ実習の医学生たちはその画像誘導手術を見学して最先端医療の現場で学習しています。病気のみならず背景の心や脳の仕組みを理解する次世代医師の育成が期待されます。これは時代がまさに要求している医療といえるでしょう。

このように琉球大学医学部附属病院脳神経外科はその開設時から外科学技術の修得を超えて脳神経外科疾患に伴う脳機能障害の病態解明とその治療に邁進し、さらに病により障害された脳機能の賦活獲得という大きな課題の達成を目標としながら発展してきました。現在、術中MRIの導入やナビゲーションにPET画像やトラクトグラフィ（神経回路）の情報を生じた画像誘導手術と神経機能モニタリングを駆使する手術環境が整いました。これは患者の機能を温存しながら最大限の治療成果を期待するものです。関連施設からは次々と高度化手術症例が紹介されて来ています。ポリクリ実習の医学生たちはその画像誘導手術を見学して最先端医療の現場で学習しています。病気のみならず背景の心や脳の仕組みを理解する次世代医師の育成が期待されます。これは時代がまさに要求している医療といえるでしょう。



初代
六川 二郎 教授



第2代
吉井與志彦 教授

*1：（手術による）除去。切除。

*2：離島へき地医療の現状・実態を把握するとともに、重要性を理解するため、医学生が離島地域中核病院で実習を行うプログラム。



子宮頸がんに対する妊孕性温存手術 ～手術後も妊娠・出産できる可能性を残す～

青木 陽一

副病院長・産科婦人科長

近年、子宮頸がんは20歳代、30歳代の若い患者さんの増加により、手術後も妊娠・出産できる可能性を残す(妊孕性温存)手術を希望する患者さんが増えています。

1. 子宮頸部円錐切除術

子宮の入口だけ小さく円錐形に切除

上皮内がんや微小浸潤がんの一部の患者さんには、この手術による妊孕性温存を行います。

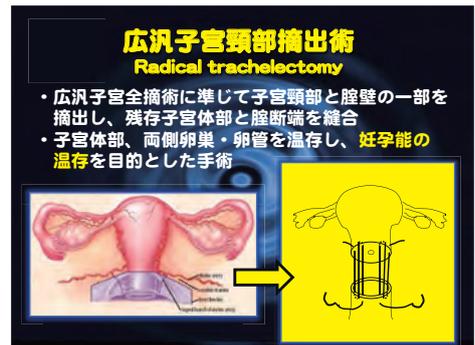
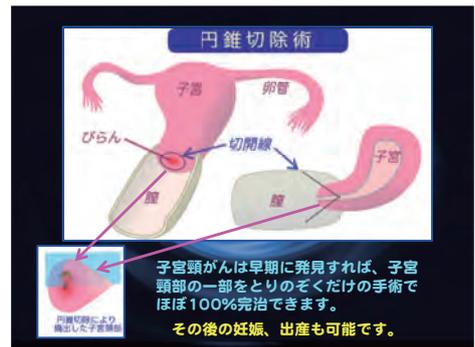
2. 広汎子宮頸部摘出術

子宮頸部のみを周囲組織とともに広く摘出

子宮頸部浸潤癌の中で腫瘍が2cm以下の患者さんが対象となります。子宮頸部だけを通常の子宮頸癌手術のように広く摘出し、子宮体部(赤ちゃんが妊娠する場所)と膣を縫合することで、手術後も妊娠・出産の可能性を残すことができます。手術後の再発率は4～5%で標準的手術と同等とされています。当科でも2008年より本手術を取り入れ、現在までに20人の患者さんに実施し、1人の患者さんは手術後に妊娠し満期で出産されました。

妊娠中の広汎子宮頸部摘出術

妊娠中に子宮頸がんが見つかった場合、通常は妊娠を諦めて子宮を摘出します。当院産科婦人科において昨年8月、妊娠17週の早期浸潤子宮頸がんの妊婦さんが本手術を受け妊娠を継続し、妊娠38週目に無事健康児を出産しました(大阪大学に次ぎ国内2例目)。現在も母子ともに健康です。今後も新たに妊娠、出産できる可能性があります。妊娠中も選択肢になると考えられます。



新任教員紹介

歯科口腔外科



西原 一秀

歯科口腔外科
准教授

口唇口蓋裂児の健やかな笑顔を目指して

この度、平成26年4月1日付けで琉球大学医学部附属病院歯科口腔外科 准教授に就任いたしました。私は、平成元年3月に鹿児島大学歯学部を卒業し、その後口腔外科医として口唇口蓋裂治療を主に、歯科インプラントや顎変形症、口腔悪性腫瘍など多くの治療を経験、勉強させて頂きました。

口唇口蓋裂は顎・顔面の形態異常および、それに由来する種々の口腔機能障害を伴う先天異常で、種々の障害が患者および家族に与える苦痛ははかり知れないものがあります。口唇口蓋裂児が心身ともに健全な状態で社会生活を営むためには、出生直後から成人に達するまで多岐にわたる治療が必要で、これらの治療を円滑に行い、所期の目的を達するには多くの人々の円滑なチームワークに基づく一貫治療が不可欠となります。今後は、琉球大学医学部附属病院口唇口蓋裂センターにて口唇口蓋裂専門治療の充実と技術の向上を図るとともに積極的に社会活動を展開し、口唇口蓋裂児の健やかな笑顔を育む治療、環境作りに取り組みたいと思っています。また、これまでベトナムやエチオピアなどで行って来た海外医療援助活動を継続するとともに、琉球大学で行われて来たラオス国での支援活動に参加して、発展途上国の人々に技術移転を行い、広く国内外において口唇口蓋裂医療の発展に貢献したいと考えています。

今後とも、沖縄県の歯科口腔外科の発展と口唇口蓋裂治療の充実を図るために頑張りたいと思いますので、ご助言・ご指導をよろしくお願いします。



医師キャリア支援センター

益崎 裕章

副病院長・第二内科長
医師キャリア支援センター長

平成26年から琉球大学医学部附属病院医師キャリア支援センター長を担当させて頂いております。
琉球大学 医学部附属病院職員の皆様・沖縄県の医療関係者の皆様におかれましては倍旧の御指導・御鞭撻を賜りますよう宜しく御願い申し上げます。

超高齢化社会を迎え、医師の人生にも“生涯持続力”が求められるようになりました。私達を取り巻く医療情報は凄まじい勢いで膨張しており、昔ながらの研修方法や勉強方法ではもはや通用しない時代です。毎年、毎年、膨大な種類の新薬が登場し、医療技術も目まぐるしい進歩を遂げています。御開業の先生方からは“昨今の医学の進歩に追いついていくのは本当に大変で、少し油断するとあっという間に“医療版 浦島太郎”になってしまいます”という悲鳴が寄せられます。“医師になる”ことは“一生涯、勉強を続けていく姿勢と決意”と引き換えに成立します。私の周りにも80歳台、90歳台で立派に現役の医師として活躍なさっている先生が少なくありません。母校、京都大学の先輩でもある日野原 重明 先生（聖路加国際病院 理事長）は102歳の今も外来診療や病棟回診をこなされ、1日に2～3回の講演のハシゴも日常的です。

生涯にわたって輝き続ける医師であるためには医師になって最初の2～3年間に受ける初期教育が決定的な意味を持ちます。どのような先生からどのような医療教育を受けたか。研修医仲間との切磋琢磨の質を如何に向上できたか。良質の医療を実践するための医療リテラシーの鍛錬ができたか。電子カルテや紹介状の書き方、医療スタッフや患者さん・御家族とのコミュニケーション能力、症例のプレゼンテーション能力、学会発表や論文執筆の能力などをしっかりと身に付けなければ進歩著しい21世紀の医療環境を果敢に生き抜いていくことは不可能です。

初期臨床研修の充実と向上に向けて医師キャリア支援センターは恰好の研鑽の場を提供できると自負しております。御二人の副センター長、正本 仁 先生（周産母子センター長）と垣花 学先生（麻酔科学 教授）をはじめ、琉球大学医学部附属病院の各診療領域で大活躍中の輝くセンター・スタッフが愛情をこめて誠心誠意、研修医の皆さんをサポートします。研修上の問題や悩み、進路選択、医師キャリアの構築・ブランド創成など、どのようなことでも気軽に相談して戴きたいと願っております。新しくスタートする臨床研修制度では各専門領域における専門医の取得が非常に大きな意味を持つこととなります。沖縄県内の基幹病院の中にも専門医を取得できない病院（専門医不在のために研修指定病院として認定されていない病院）が少なくないことを勘案しますと各専門分野のエキスパート・指導医が揃っている琉大病院における初期臨床研修で得られる様々なメリットは計り知れません。沖縄県内外の医学生の皆さん・医師の皆様が医師キャリア支援センターに関心を寄せて戴き、積極的な御参画・御支援・御指導を賜りますよう宜しく御願い申し上げます。





砂川 智子

薬剤師

少女時代からの夢を叶えてくれた職場で 生き生き輝いています！

小学生の頃からの夢であった薬剤師になり10年がたちました。この10年間は、薬剤部業務と並行しながらの社会人大学院への進学（現在、博士課程の3年生ですが、修士課程では研究成果を高く評価していただき、学長賞と金時計をいただきました）、糖尿病療養指導士（CDE）の認定取得、出産、育児、そして仕事復帰もあり、私にとって最高の10年間となりました。

育児休業中も大学院生として講義への出席や学会発表を行えたことが自身のキャリアアップにつながったと感じています。素晴らしいことに、今年度から講義単位の取得方法が変更となり、子育てと並行しながらの単位取得が行いやすくなりました。

現在は、育児のための短時間勤務制度を利用しながらの薬剤部の業務に加えて、CDEの資格を生かした業務に携わりながら日々輝いています。糖尿病ケアチームの一員（医師・看護師・栄養士・薬剤師で構成）として、毎月1回行われている外来患者さんを対象とした糖尿病教室も担当しています。月に一度ですが、患者さんやチームのみんなと会うことが楽しみになっています。

1歳児の子育てに必要な病児保育室（ゆくる一む）が院内に整備されていることも仕事を続ける上で大きな支えになっています。育児・仕事・大学院生をこなす日々を忙しくも楽しく♪過ごせています。女性としての幸せを味わいながら、すべてを両立できるのは琉大病院の大きな魅力だと感じています。私は琉大病院が大好きです♪感謝・感謝です♪



山城 美奈

看護師

働きやすい環境が、快適な病棟をつくる

皆様こんにちは。この度HOTLINEで紹介していただくことになりました、第二内科所属3年目になります看護師の山城美奈と申します。

私が第二内科に配属希望したきっかけは、大学4年生の頃に行ったインターンシップでした。いくつかの科を回ったなかでも、特に看護師さんたちの指導が懇切丁寧で優しく、すぐに第二内科を希望したことを昨日のように覚えています。

第二内科では、糖尿病患者様を対象とした糖尿病教育を実施しています。時には回答が困難な質問も受けますが、その度に自ら学習し指導することで患者様・自分自身のスキルアップに繋がり、相互の成長となっています。

また、血液疾患は特性上重症化する患者様が多く、治療をする上で患者様の心身面のストレスは多大なものであるため、普段の表情や会話の中から些細な変化をキャッチし、医療・看護的介入が必要でないかアセスメントすることを日頃から注意して行うよう心がけています。

第二内科の特徴として、益崎教授や糸数師長をはじめ病棟スタッフ全員が心温かくとても優しいです。業務を遂行する上で何か困った時はすぐに先輩ナースや先生方に相談できる雰囲気できており、多忙な状況下でも丁寧にご指導してくださるので毎日充実して働くことができます。

第二内科病棟目標である、『“この病棟に入院して本当に良かった！”と患者さんに感じて戴ける心安らぐ快適な病棟を創る』を胸に、これからも、常に笑顔で明るく、一生懸命業務に邁進する所存でございます。



大石麻衣子

看護師

患者さんと一緒に喜べる！そんな指導を目指して

私は糖尿病療養指導士として、火曜日から金曜日に内科外来で勤務しております。外来では主に糖尿病患者さんの療養指導を担当させていただいています。

療養指導の内容としては、食事療法や運動療法、薬物療法、低血糖、シックデイ、フットケア、インスリン注射、自己血糖測定など多岐にわたります。これらの指導を行う上で一番大切にしていることは、患者さんの生活状況をよく知る、ということです。糖尿病は、自覚症状が乏しく、合併症が怖い病気だと言われています。良好な血糖コントロールを目指すためには、患者さん自身が生活を改善していく必要があります。そのためにも、患者さんの生活を良く知り、生活の中での改善点や方法を、一緒に考え手助けすることが私の役割だと考えています。

私が糖尿病療養指導士として一番やりがいを感じる時は、「患者さんにとって私の指導が役に立った」と思える時です。一緒に考えた改善策で、患者さん自身が生活を変える事が出来、それを患者さんと一緒に喜べる瞬間は、私のモチベーションもあがります。今後も、患者さんへ自信を持ってお話しする事が出来る様、日々患者さんから学び、成長していきたいと思っています。

内科外来には、私を含め糖尿病療養指導士が2人いますので、誰にも相談できない事でも、一人で悩まず、ぜひ気軽に声をかけてください。

イベント1 エコクリーンデー in 上原キャンパス

医学部保健学科成人・がん看護学分野 准教授、特別管理産業廃棄物管理責任者 大湾 知子

上原キャンパスの附属病院と医学部では、毎年、未来の琉球大学学生を迎えよう、という趣旨からオープンキャンパスでのおもてなしを前に教職員と学生による一斉清掃を行い、全国各地からの高校生を迎えております。

“綺麗なキャンパスが好きです！”と題し、経営管理課が中心になり敷地内建物周囲・立体駐車場の環境美化および廃棄物削減を図っております。

7月17日（木）午後3時30分～5時、「エコクリーンデーin上原キャンパス」を掲げ、松下医学部長が挨拶をし、作業の説明を行った後、看護部、事務部、保健学科の学生・院生と教職員、サークルの学生など参加者約200名の情熱で上原キャンパスを綺麗に！明るく！元気に！！清掃作業を行いました。

一般財団法人徳明会よりご寄付いただいた飲み物で水分を補給しながら、非常に暑い日差しの中、帽子をかぶり手袋、竹ぼうきやチリトリで花壇の除草、車輻周辺や排水溝内の枯葉と草木を収集しました。お陰様でゴミは大分減り、本院に来院される方、キャンパスの利用者や訪問者・高校生を気持ち良くお迎えすることが出来ました。ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。



イベント2 高校生対象 医療者体験ツアーご参加ありがとうございました

おきなわクリニカルシミュレーションセンター

7月19日、第3回高校生対象医療者体験ツアーが開催されました。診察ブースでは屋良先生（呼吸器内科）、奥村先生（循環器内科）による、肺音・心音の聴取や気管挿管の手技を体験し、手術ブースにおいては宮里先生（泌尿器科）、佐辺先生（第一外科）より手術訓練用のシミュレータで遠隔操作での手技を体験。救命ブースでは胸骨圧迫や気道確保の方法、AED操作など様々な内容を体験してもらいました。午後の施設見学会でも多くの学生が医療に対するの好奇心や興味が見えました。ツアー開催に協力して頂いた先生方に感謝するとともにイベントをとおして、高校生の皆さんや県民の方々に医療の教育現場を知って頂く良い機会になればと思います。



診察ブースの様子



手術ブースの様子



☆シミュレーション基盤型教育セミナー Fun Sim J開催決定☆

Fun Sim(Fundamentals of simulation)セミナーは、ハワイ大学SimTikiセンターで開催されている指導者（インストラクターやファシリテータ）向けの入門コースです。シミュレーション教育における指導の基本を講義と高機能シミュレータを使用したシミュレーション体験から学ぶ内容となっており、ハワイ大学とおきなわクリニカルシミュレーションセンターからの正式な認定書が発行されるコースです。

開催日：平成26年12月6日（土）～12月7日（日）

会場：おきなわクリニカルシミュレーションセンター

講師：ハワイ大学SimTiki Simulation Center Benjamin Berg先生
東京医科大学病院 シミュレーションセンター 阿部幸恵先生



参加申込み受付中！詳細はセンターHPをご覧ください。(http://okinawa-clinical-sim.org/)

表彰 環境大臣から感謝状が贈呈されました！

周産母子センター長 正本 仁

平成22年度から、環境省が主体となって出生コホート研究である「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」が行われています。沖縄県は全国15か所の調査地域の一つとして選ばれ、宮古島市在住の妊婦と出生児を対象に面談による情報収集、血液、毛髪、母乳、尿などの検体採取が行われており、琉球大学医学部の衛生学・公衆衛生学講座、産科婦人科、小児科が沖縄県におけるサブユニットセンターとして研究を担っています。また琉球大学医学部附属病院は、高次医療機関としてその診療と研究に協力しています。

平成26年3月をもってその研究対象者リクルートが目標参加登録者数である10万人に到達し、本院の協力医療機関としての功績が評価され、石原環境大臣より感謝状をいただきました。これを機会に今後も県民の健康に貢献できるような研究、企画等にもっと携わっていきたいと考えています。



(左から) 正本周産母子センター長、國古病院長

お知らせ

シリーズでおくる

～沖縄県民の健康公開講座～

担当副病院長 澤口 昭一 病院長 國吉 幸男

琉球大学医学部附属病院は最新で安全な医療を多くの県民の皆様へ還元できるように医師、看護師、医療スタッフ一丸となって絶え間なく研鑽に励んでおります。

最新の医療機器の臨床への応用、新しい薬剤の開発と臨床への普及はより多くの患者さまにストレスの少ない安心できる医療を提供し、また安全に、短期間での社会復帰を可能にしています。

多くの県民の皆様へ琉球大学の全ての診療科の先端医療、最新医療の情報を知っていただき、より多くの患者様の診療に役立つように希望しております。是非ご参加いただきますようお願い申し上げます。

【今後の開催予定】

回	担当診療科	日程	時間	場所
第4回	耳鼻咽喉科	10月26日（日）	14:00～16:00	沖縄県立博物館・美術館
第5回	第二外科（胸部心臓血管外科）	11月16日（日）	14:00～16:00	沖縄県立博物館・美術館
第6回	産科婦人科	12月21日（日）	14:00～16:00	沖縄県立博物館・美術館

※全講座入場無料、事前申し込み不要

※曜日枠に赤まる●が付いた曜日が外来診療日となります。外来の際にご確認ください。

※診療受付時間は午前8時30分から午前11時まで、診療開始時間は午前9時です。 平成26年10月1日現在

外来診療日割表

診療科	専門外来	月	火	水	木	金	備考
第一内科	感染症内科	●	●		●	●	新患は要紹介状
	呼吸器内科	●	●		●	●	新患は要紹介状 肺腫瘍：火曜日 びまん性肺疾患：月曜日
	消化器内科（消化管）	●	●		●	●	新患は要紹介状 糞線虫外来：木曜日
	（肝臓）	※	●		●	●	※月曜日午後：B型肝炎訴訟診療（要予約）
	（胆道・膵臓）	●					※
第二内科	血液内科（骨髄移植外来）		●	●		●	新患は要紹介状
	成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)外来		●				
	肥満症（生活習慣病）		●	●		●	新患は要紹介状、院外は要予約
	糖尿病・内分泌・代謝内科	●	●	●		●	糖尿病外来は専用フォーム有 (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約) (月曜日は、院内入院患者の紹介のみ)
	膠原病・リウマチ内科		●	●			※膠原病・リウマチ内科は専門医の確保が出来るまで休診(再来のみ可)
	骨粗鬆症・男性更年期(LOH)		●	●			
	女性医師による女性外来		●			●	※女性医師による女性外来は要予約(院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約)
第三内科	神経内科	●		●	●		新患は要紹介状
	高血圧・腎臓内科	●		●	●	●	※神経内科の新患外来は、紹介病院からの予約のみ。再来は要予約
	高齢内科			●	●		
循環器科	循環器内科	●		●	●	●	新患は要紹介状
第一外科	上部消化管外科	●		●	●		
	下部消化管外科	●		●	●		下部消化管外科：新患は要紹介状、要予約 (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約)
	肝胆膵外科	●		●	●		
	乳腺・甲状腺外科	●		●	●		
第二外科	小児外科	●		●			小児外科は午後のみ
心臓血管外科	呼吸器外科		●		●		
	心臓血管外科		●			●	
	ステント外来		●			●	血管外科：新患は要紹介状、院外は要予約(医療福祉支援センター内線・1371で予約) 木曜日：院内紹介のみ(主にDVT、静脈瘤)
	血管外科		●		●	●	新患は要紹介状、要予約 他科・他院からの紹介・予約患者は10時～11時に受付(院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約) 緊急を要する患者は医局1171または病棟3801へ連絡し当日の当直医(担当医)が対応します。 ※血管内専門外来は月、金曜日
脳神経外科	脳神経外科	●		●		●	新患は要紹介状、要予約 他科・他院からの紹介・予約患者は10時～11時に受付(院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約) 緊急を要する患者は医局1171または病棟3801へ連絡し当日の当直医(担当医)が対応します。 ※血管内専門外来は月、金曜日
整形外科	手の外科	●		●		●	新患は要紹介状
	リウマチ			●		●	
	骨・軟部腫瘍	●		●		●	
	脊椎・関節	●		●		●	
	スポーツ医学(膝)	●		●		●	
	骨粗鬆症			●		●	
	小児整形			●		●	※小児整形：毎月第1金曜日は休診
産科婦人科	新患	●		●		●	
	産婦人科	●		●		●	火曜日・木曜日：予約再来のみ
	生殖不妊・内分泌・骨粗鬆症	●		●		●	
小児科	新患・一般再来	●		●		●	新患は要紹介状
	生活習慣病・内分泌	●		●		●	小児循環器専門医は不在
	遺伝・先天代謝異常	●		●		●	小児腎臓科は要相談
	神経	●		●		●	
	新生児	●				●	
	血液(移植外来)			●		●	
	膠原病	●				●	
皮膚科	皮膚科		●		●	●	新患は要紹介状
	皮膚外科		●			●	
	乾癬		●			●	
	強皮症・皮膚筋炎		●			●	
泌尿器科	泌尿器科	●	●			●	新患は要紹介状、要予約(院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約)
	腎移植外来	●	●			●	※月曜日：小児泌尿器科 腎移植外来：月曜日は再来のみ
耳鼻咽喉科	新患	●		●		●	新患は要紹介状
	甲状腺・頭頸部腫瘍	●		●		●	
	鼻副鼻腔・アレルギー	●		●		●	
	中耳炎・難聴・めまい・顔面神経	●		●		●	
	人工内耳			●		●	
	幼児難聴・補聴器	●				●	
	形成・外傷・味覚			●		●	
	口腔咽頭・唾液腺・音声・嚥下	●		●		●	
頸部エコー外来	●		●		●		
眼科	緑内障	●		●			月曜日は外来者の新患及び再来予約のみ
	小児眼			●			
	網膜硝子体		●		●		
	角膜		●		●		
	神経・腫瘍・ぶどう膜炎	●	●	●	●	●	月曜日の神経、腫瘍は午後の再来のみ
	一般再来		●	●	●	●	

※曜日枠に赤まる●が付いた曜日が外来診療日となります。外来の際にご確認ください。
 ※診療受付時間は午前8時30分から午前11時まで、診療開始時間は午前9時です。 平成26年10月1日現在

診療科	専門外来	月	火	水	木	金	備考	
精神科 神経科	新患		●		●	●	新患は予約制 (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約) (院内他科通院中の方は当科外来受付・内線1306で予約) ※紹介状も必要です。	
	一般再来		●		●	●		
	児童・思春期外来	●						
	周産期支援外来	●						
	光トポグラフィ外来	●				●		
放射線科	放射線診断・IVR			●		●	新患は要紹介状 甲状腺は水曜日のみ 重粒子線治療相談外来は水曜日のみ	
	CTガイド下・PVP			●				
	甲状腺・RI		●	●				
	放射線治療		●	●		●		
麻酔科	麻酔科	●		●		●		
	ペインクリニック	●		●		●		
歯科 口腔外科	新患・一般外来	●	●		●	●	新患・一般外来：月～金曜日（水曜日を除く）	
	口唇・口蓋裂	●						
	顎変形症	●						
	腫瘍		●					
	顎関節症				●			
	外傷				●	●		
	口腔ケアセンター	●	●		●	●		
リハビリテーション部	リハビリテーション部	●	●	●	●	●	当院リハは入院患者のみ。以外は電話にて要相談 新患は火・水・木曜日（要リハ紹介状） （月・金午前は検査優先）	
高気圧治療部	高気圧治療部	●	●	●	●	●	新患は要紹介状 新患は午前11:00まで、救急は要連絡	
血液浄化療法部	血液浄化療法部	●	●	●	●	●	土曜日は再来のみ	
地域医療部	地域医療部		●		●	●	木曜日は第2・4の午前中のみ	
総合診療センター	総合診療科部門	●	●	●	●	●	総合診療科部門は午前のみ ※外来患者のみ 火～金曜日の午前中・予約制 完全予約制・院外からの紹介患者のみ (医療福祉支援センター・内線1371で要予約) 第3金曜日の午後のみ ※事前予約が望ましい	
	禁煙外来		●	●	●	●		
	ものわずれ診断外来	●			●	●		
がんセンター	緩和ケア外来(身体的緩和部門)	●	●	●	●	●	新患は要紹介状(火・木曜日は予約制)	
	(精神的緩和部門)		●		●			
救急部	救急部	24時間診療						

本院の理念及び基本方針

理念

病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、国際性豊かな医療人を育成する。

基本方針

1. 生命の尊厳を重んじた全人的医療の実践
2. 地域における保健・医療・福祉の向上に対する貢献と関連機関との連携
3. 先端医療技術の開発・応用・評価
4. 国際性豊かな医療人育成

患者さんの権利と責務について

琉球大学医学部附属病院では、患者さんを中心とした「安全・安心・思いやり」に基づくより良い医療を目指しております。患者さんとの深い信頼関係の上に成り立つ医療の大切さを十分に理解するとともに、患者さんには一人一人に次のような権利と責務があることを確認いたします。

●患者さんの権利●

1. あなたは、どんな場合でも、一人の人間として扱われる権利があります。
2. あなたは、どのような境遇、環境であっても、専門家による平等で良質な医療を受ける権利があります。
3. あなたは、病気のことや治療について十分教えてもらう権利があります。
4. あなたは、治療について意見を述べる権利と選択できる権利があります。
5. あなたは、あなた自身の話したこと、病気、身体について知られたくないことを守られる権利があります。

●患者さんの責務●

1. 最善かつ適切な診療を行なうために、あなた自身の健康状態についてできるだけ正確に伝える責務があります。
2. 主治医や担当医の治療や退院計画に主体的に取組み協力する責務があります。
3. すべての患者さんが適切な医療を受けられるように、病院の規則に従い、医療の妨げとならないように協力する責務があります。特に攻撃的な態度や暴言、乱暴な行為は謹み、施設の所有物を大切に使うようにして下さい。

平成22年8月

本院までの交通機関



- 那覇バス
所要時間：那覇バスターミナルより本院まで約50分
- 97番 琉大線
経路：那覇バスターミナル～牧志～儀保～琉大病院前～長田～中部商業高校前～琉大北口
タクシー・乗用車での所要時間
●那覇市街より約25分 ●沖縄市街より約20分
●那覇空港より約35分 ●モノレール首里駅から10分
※モノレール儀保駅からバス(97番)で30分

附属病院
ホームページが
携帯サイトからも
閲覧できます。



ボランティア募集

本院では、一般の方からの病院ボランティア(外来ロビーでの案内・補助等)を広く募集しております。空いている時間を利用して、一緒に参加してみませんか？まずはお気軽にご連絡下さい。
【連絡先】総務課総務第二係 (098-895-3331 (内線：2102))

琉球大学医学部附属病院 電話(098)895-3331(代表) 〒903-0215 沖縄県西原町字上原207番地
http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/